



ちやいんど POP 研修会報告

1. 研修日時 平成 29 年 10 月 12 日(木) 10:00~12:00
2. 研修会内容 「放課後等デイサービスのあり方について」

前半：放課後等デイサービスとは（講義）

放デイのこれまでの流れ・現状・課題・今後の対応策を確認し
ガイドラインの内容確認をおこなう。

後半：福祉職員の心得（講義・グループワーク）

基礎的な心得として、コミュニケーションについて学び考える。
5人2グループに分かれグループワークをおこない、
価値観の違いや押し付けについて考え、POPの事業目標を確認する。

3. 研修会の感想

今回の研修会では、放課後等デイサービスとして事業所はどのような支援を提供し
利用者とともに接していくべきなのかを、あらためて基本に立ち返って、
再確認していく場となりました。

人間関係を築いていくために基本となるコミュニケーションの大切さ、とり方を含めて
色々と学べたり、日常においても考えさせられる事があったと思います。

今年度のPOPの事業所の目標は

「利用者・ご家族を主体とした支援を心掛け良い支援を提供しよう！」です。

良い支援を提供していくために各自、日々の振る舞いや業務の内容などを
今一度、見つめ直すことも必要な時期ではないかと思えます。

研修会の内容につきましては裏面と別紙配布資料を参照してください。

【放課後等デイサービスの現状と課題】

- 平成24年4月の制度創設以降、利用者・費用・事業所数が大幅に増加

放課後等デイサービスの事業所数

全国～約1万か所（平成29年4月現在）

大阪市～約400か所 東成区～22か所（平成29年8月現在）

- 支援の質が低い事業所や適切ではない支援を行う事業所が増えているとの指摘があり支援内容の適正化と質の向上が求められている。

今後の対応策として、児童発達支援管理責任者の資格要件・人員配置基準の見直し
放課後等デイサービスガイドラインの遵守などがあげられている。

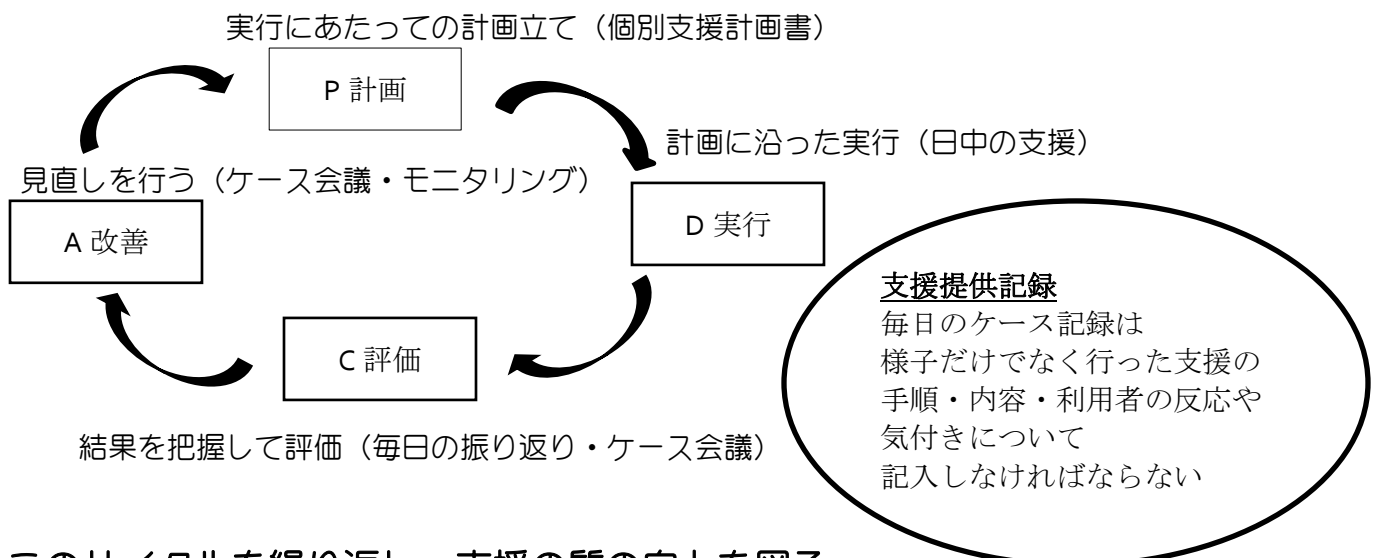


支援の質の向上の為にと推測される

【放課後等デイサービスガイドラインの確認】

- 1 総則 より1部抜粋して確認
 - ・放課後等デイサービスの基本的役割
 - ・放課後等デイサービスの提供に当たっての基本的姿勢と基本活動
 - ・適切な支援の提供と支援の質の向上（PDCA サイクル）
- 4 従業者向け より1部抜粋して確認
 - ・放課後等デイサービス計画に基づく PDCA サイクル等による適切な支援の提供
 - ・障がい児支援計画書及び放課後等デイサービス計画の理解
 - ・支援提供記録

【PDCA サイクルと支援提供記録について】



このサイクルを繰り返し、支援の質の向上を図る
記録を正しくとることで、支援の周知・統一・情報の共有につながる

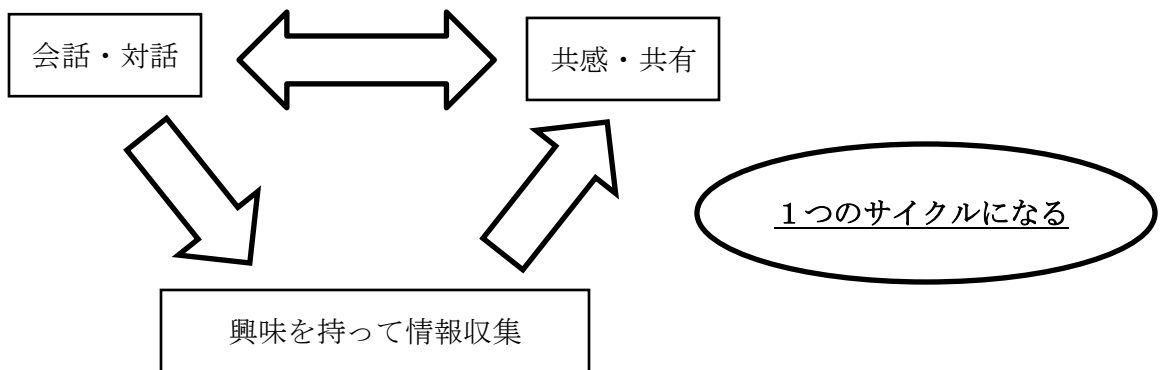
【福祉職員の心得】

※職員全員に質問：普段、仕事をしている時に何を大事に考えているか？

回答 ・利用者第一 ・安全 ・情報の共有 ・楽しく ・障がいによる差別をしない
・発達に応じた支援 ・愛情 ・利用者の事を知る

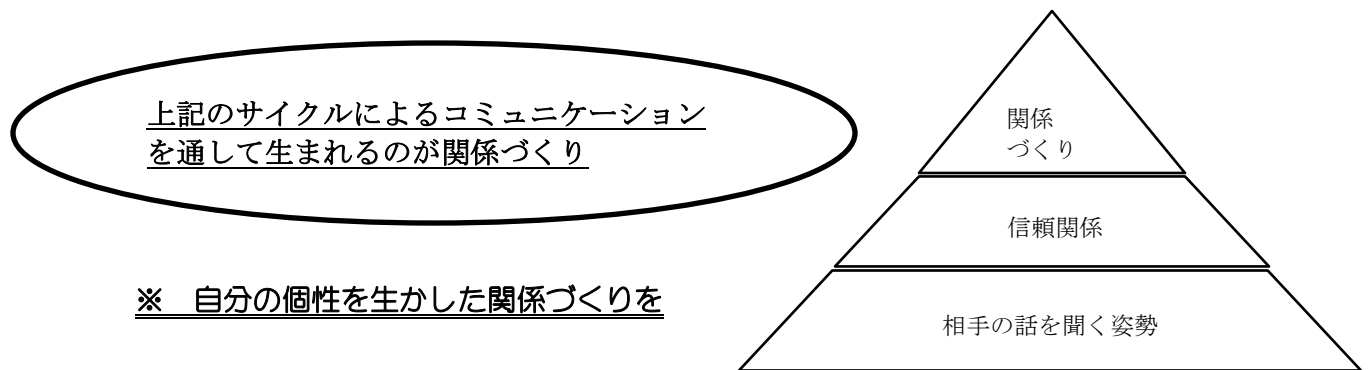
●コミュニケーションについて考える

コミュニケーションとは、自分と自分以外の誰かとは会話・対話を通して何かを共感・共有することから始まる。



情報収集の種類

見る ～ 行動を見る・状態を見る (申いすが必要か・どんな動きをするのか・医的ケアがいつようか など)
聞く ～ 利用者が発する言葉・他の職員の話 (どんな言葉を話すのか・好きなキャラクターや歌 など)
読む ～ アセスメント・ケース記録・支援計画書



相手の話を聞く姿勢 ～ ただ聞くだけでなく、伝えようとしている事を理解する
信頼関係 ～ 人それぞれに関係の深さは変わる
関係づくり ～ 信頼関係ができていないとできない。専門書を読んだり他人の真似事をして身につかない

・2種類のコミュニケーション

- ① 対話・会話を通して共感・共有する積極的なコミュニケーション
- ② 控えめな態度やスキンシップ・見守る姿勢をとるコミュニケーション

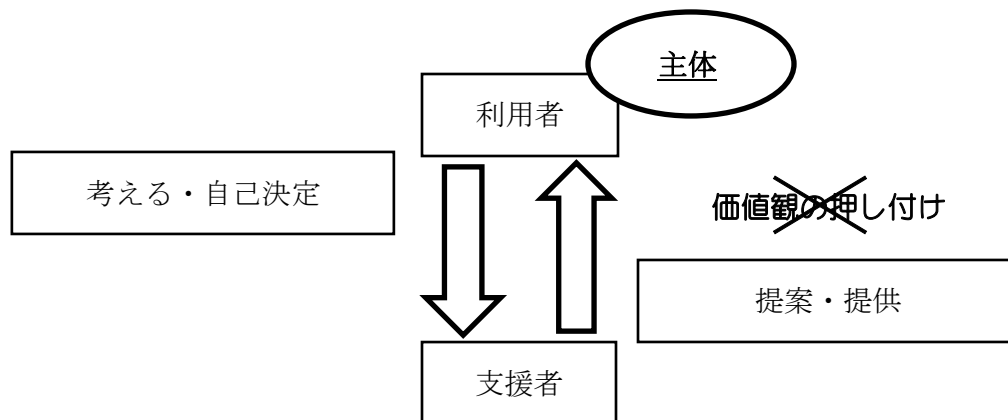
その場に応じたコミュニケーションの見極めを！

●価値観について

- ・グループワークを通して考えてみる

自分で決める事ができない・どうしたらいいのかわからない…
という子どもたちの支援で気をつけたい事

「絶対こうしたら良い」「こうした方が良いに決まってる」 ➡ 価値観の押し付け
「こうしてみたら？」 「こうすれば良くなるんじゃない？」 ➡ 提案・提供



支援者の言葉や環境づくりによって、提案・提供する支援をし
子どもたちが、自分で考えたり決定できたりする力をつけてもらう。

POP の目標

「利用者・ご家族を主体とした支援を心掛け良い支援を提供しよう！」

支援者は自分の価値観にとらわれず、利用者を主体とした支援を心掛ける

- ※ 退職者が続いており、日頃からの態度や言葉づかいなど、
全員が一度見つめなおす事が必要ではないが。
利用者との関係だけでなく、職員間の連携・コミュニケーションも大事にし、
更なる支援の向上を目指していく。